



家庭数配布

令和2年(2020年)1月24日
国立市立国立第二小学校
校長 小林理人
特別支援教育コーディネーター
NO. 24

～共生社会に生きる子供たちのために～

学校保健委員会講演会より⑤終*****



「子どもの感情は自然に育つの？育てるものなの？」

家庭のルール定着を図るために

1. ルールとその意義を確認する

具体的で
できそうなこと

GOODの確認を

**何がGOODで、何が悪いのかを明確に
教えること。**
(good が分かっていない子が多い)

家庭でのルールは、その子の発達に合わせて具体的で、できそうなことにしましょう。むずかしければ、少し年齢を下げて設定してあげましょう。

短く分かりやすく「ルールを守る良さ」を伝えましょう。



2. ルールにそった行動をほめる

子供が好ましい行動をとっていたら、「そんなの当たり前！」とせず、「あたりまえのことでも、きちんと

できていて偉いよ。」としっかり認めましょう。「褒めるのが苦手で…」というお家の人も、「できてる、できてる。」「よしよし!」「ありがとう。」「さすが!」と短い言葉でも、一言声をかけましょう。大人も褒めることが上手になっていきます。

3. 困る行動には毅然とした態度で

困った行動に向き合うときは大人もイラッとしがち。間をとり、冷静に、簡潔に、毅然とした対応を

心がけましょう。「感情」と「行動」を分けて受けとめることを意識して、まずは「感情」から受け入れ、言語化し、次にとるべき行動を伝えましょう。それも、肯定的な表現で、「▲▲はだめ」は避け、「○○できるといいね」と伝えましょう。また、「このくらいは…」と見て見ぬふりはやめましょう。「揺るぎない大人」としての一貫性がなくなります。しかし、大人の気を引くための困った行動に対しては「温かい無視」も必要です。子供の行動の基にある背景を見越して対応しましょう。

最後に、どの子も皆よくなりたいと思っています。褒めてもらいたいと願っています。うまくできないのは、方法が分からないのです。適切な支援や言葉かけを受ければ、子供は必ず変わります。

こうできるといいね!



*講演会後の保護者アンケートでは「もっとお話を聞きたかった」「気持ちを言葉にして伝えていく『感情の社会化』を意識していきたい」「親は自分が育ったようにしか子に接することができなくて…ヒントをいただけた」などの感想が寄せられました。お勧めの書籍として「ちゃんと泣ける子に育てよう一親には子どもの感情を育てる義務がある」大河原美以 著 河出書房新社刊 の紹介がありました。